

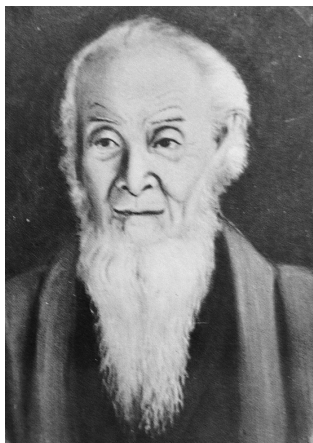
資料渉猟余話

その132

二十一年十二月三十日没。

「天龍峽記」と「天龍峽十勝」の概略は、氏に生まれたが、長じて川路百花園の関島家を嗣いだ。名古屋の柳田凌雲に就いて医学を修め、以来川路の郷医として令名を馳せた。その傍ら寺子屋を開き、半世紀近く村童の教育に力を尽くした。三穂の旗本小等原氏の信任が厚く、求められて経書や和歌を講じた。博学で風流、田の上柳喜右衛門や木下与八郎、今田の沢柳善十郎、川路のは、天龍峽の命名か

この間、松泉は、弘化四年（一八四七）に来遊した阪谷朗廬を導いて「天龍峽」の名を得たり、明治十五年（一八八



関島松泉

天龍峽記と天龍峽十勝

関島松泉他と天龍峽

鎌倉 貞男

ら十勝の岩彫りまでの数十年間、当地の紹介と景観保護に尽力した。そのため、松泉を「天龍峽最大

の功労者」とか、「天龍峽の功労者筆頭」とか評する人が多い。先頃、飯田美術博物館に展示された書軸や書類類三十点余は、多くこの関島松泉に関するものである。それだけに、当地にとつて意義深いこれらの品々を市に寄贈された故関島良

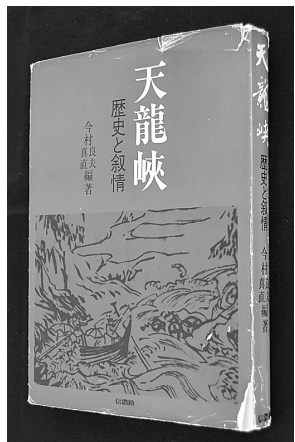
輔氏に深く感謝したい。松泉の子孫である氏は、同展開催中に他界された。心から冥福をお祈りしたい。

*

天龍峽について語る時、同じく忘れてはならない人がいる。今村良夫・真直父子である。天龍峽に限らず、両氏は、社会・文化・教育等、親子二代にわたって地域郷土のために多大の貢献をされた。

二人にはそれぞれ多くの著作があるが、天龍峽関係の書籍では、以下の四冊は特に見逃せない。

- (一) 『天龍峽』(今村良夫編 昭和二十七年 下伊那短歌協会刊)
 - (二) 『天龍峽』(百年の記録)『今村良夫著 昭和三十四年 甲陽書房刊』
 - (三) 『天龍峽』(歴史と叙情)『今村良夫・真直編著 昭和五十四年 信濃路刊』
 - (四) 『天龍峽紀行』(歴史と名勝周遊)『今村真直著 平成九年 南信州新聞社刊』
- 右の著書のみならず、先年、ご遺族の方から、親子二代で蒐集された大量の文献や資料が、公益社団法人南信州資料センターへ寄贈された。これらはいずれも貴重であり、地域郷土の研究に役立つ。私も、平素それらから学ぶことも多々、本稿執筆にあたって何度か参考にさせていただいた。併せて、生前何かと学恩を蒙った泉下の今村真直氏に感謝しつつ筆を擱く。(故人敬称略)



今村父子編著の『天龍峽』

関島松泉（一八〇六〜一八八八）、名は良致、通称退蔵である。松尾の神官大平

「天龍峽記」と「天龍峽十勝」の概略は、氏に生まれたが、長じて川路百花園の関島家を嗣いだ。名古屋の柳田凌雲に就いて医学を修め、以来川路の郷医として令名を馳せた。その傍ら寺子屋を開き、半世紀近く村童の教育に力を尽くした。三穂の旗本小等原氏の信任が厚く、求められて経書や和歌を講じた。博学で風流、田の上柳喜右衛門や木下与八郎、今田の沢柳善十郎、川路のは、天龍峽の命名か